

小中一貫教育校の制度概要

令和3年2月10日
国立教育政策研究所文教施設研究センター
総括研究官 早田 清宏

小中一貫教育の導入の歴史①

- ① 小中一貫教育を初めて導入したのは広島県呉市であり、2000年度に、文部省から、研究開発学校^{※1}の指定を受け、3小1中学校を統合した。導入のねらいは、義務教育9年間で修了するにふさわしい学力と社会性の育成、中1ギャップの解消、自尊感情の向上とされた。
- ② 2003年には、構造改革特別区域研究開発学校制度が創設され（特区研究）、これを利用して、2004年度から東京都品川区、2006年度から東京都三鷹市が小中一貫特区の取組を開始し、徐々に広がりを見せていく。
- ③ 2008年には、教育課程特例校制度^{※2}が創設され（特区研究の全国展開）、小中一貫校導入のハードルが大きく引き下げられることになった。

※1 「研究開発学校」とは、教育実践の中から提起される諸課題や、学校教育に対する多様な要請に対応した新しい教育課程（カリキュラム）や指導方法を開発するため、学習指導要領等の国の基準によらない教育課程の編成・実施を認める制度であり、1976年から実施されている。

※2 「教育課程特例校制度」とは、文部科学大臣が、学校教育法施行規則第55条の2等に基づき指定する学校において、学校又は地域の実態に照らし、より効果的な教育を実施するための特別の教育課程を編成することを認める制度

小中一貫教育の導入の歴史②

自治体や学校現場での取組が10数年以上にわたって蓄積され、**顕著な成果が明らか**になった。また、取組んできた自治体からは、取組を一層高度化させる等の観点から、**正式な学校制度として法制化すべきとの要望**があった。



教育再生実行会議の第5次提言や中央教育審議会答申※を経て、2015年6月の通常国会で、9年間の義務教育を一貫して行う新たな学校の種類である「**義務教育学校**」の設置を可能とする改正学校教育法が成立した。

※例えば、教育再生実行会議の第5次提言では、「子供の発達に応じた教育の充実、様々な挑戦を可能にする制度の柔軟化など、新しい時代にふさわしい学制を構築する」において、「小中一貫教育を制度化するなど学校段階間の連携、一貫教育を推進する」とされた。



2016年4月1日、改正学校教育法が施行。小中一貫教育が制度として全国的に開始。

「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引」平成28年12月26日 文部科学省 参照

小中一貫教育導入のねらい

大目的

義務教育9年間を連続した教育課程として捉え、児童生徒・学校・地域の実情等を踏まえた具体的な取組内容の質を高めること

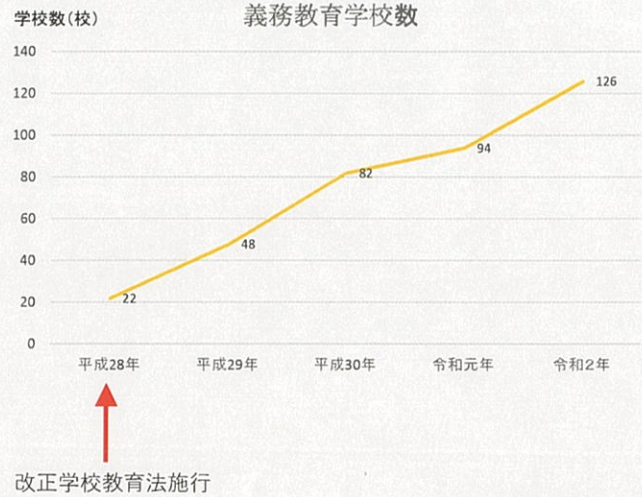
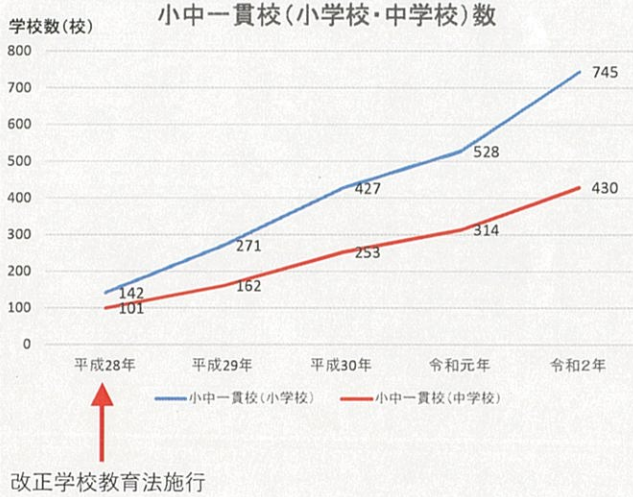
例えば、

- ・ 小学校の先生は、子供達が中学校を卒業する時の姿をイメージしているだろうか？
- ・ 中学校の先生は、小学校の時、子供達が、どの学習の部分でつまづいたかを知っているだろうか？
- ・ 小中のギャップ（いじめ、不登校、暴力行為の増加、環境の変化・勉強が難しくなることへのストレス）への対応が必要ではないか？

といった問いに向き合い、目の前の子供たちの課題に応じた対応を模索することが、前述の法令上の要請と相まって、重要性を増してきた。

「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引」平成28年12月26日 文部科学省 参照

小中一貫教育の導入校数



出典：学校基本調査（文部科学省）
※国立、公立、私立の合計数

小中連携、小中一貫、小中一貫教育制度の関係

小中連携教育 ・ 小学校・中学校の先生が互いに情報交換や交流を行う

小中一貫型
小学校中学校

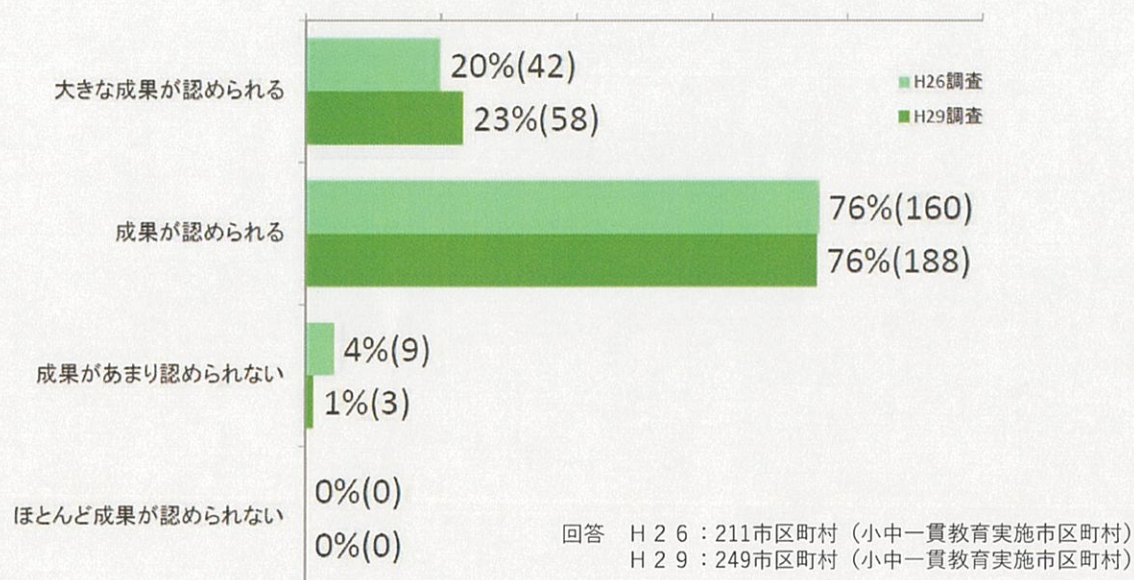
- ・ 目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成
- ・ 小学校・中学校は**組織上、独立**している
- ・ 設置者が同一の**併設型小学校・中学校**、設置者が異なる**連携型小学校・中学校**の2類型がある

義務教育学校

- ・ 目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成
- ・ 小学校・中学校の**組織が一体化**
(1人の校長、1つの教職員組織)

小中一貫教育

小中一貫教育を導入した成果①



「小中一貫教育の導入状況調査（文部科学省実施 平成29年3月1日時点）」参照

小中一貫教育を導入した成果②

（学習面）

- 勉強が好きと答える児童生徒が増えた（71%）
- 全国学力・学習状況調査の結果が向上した（61%）

（生徒指導面）

- 中学校への進学に不安を覚える児童が減少した（96%）
- 上級生が下級生の手本になろうとする意識が高まった（94%）

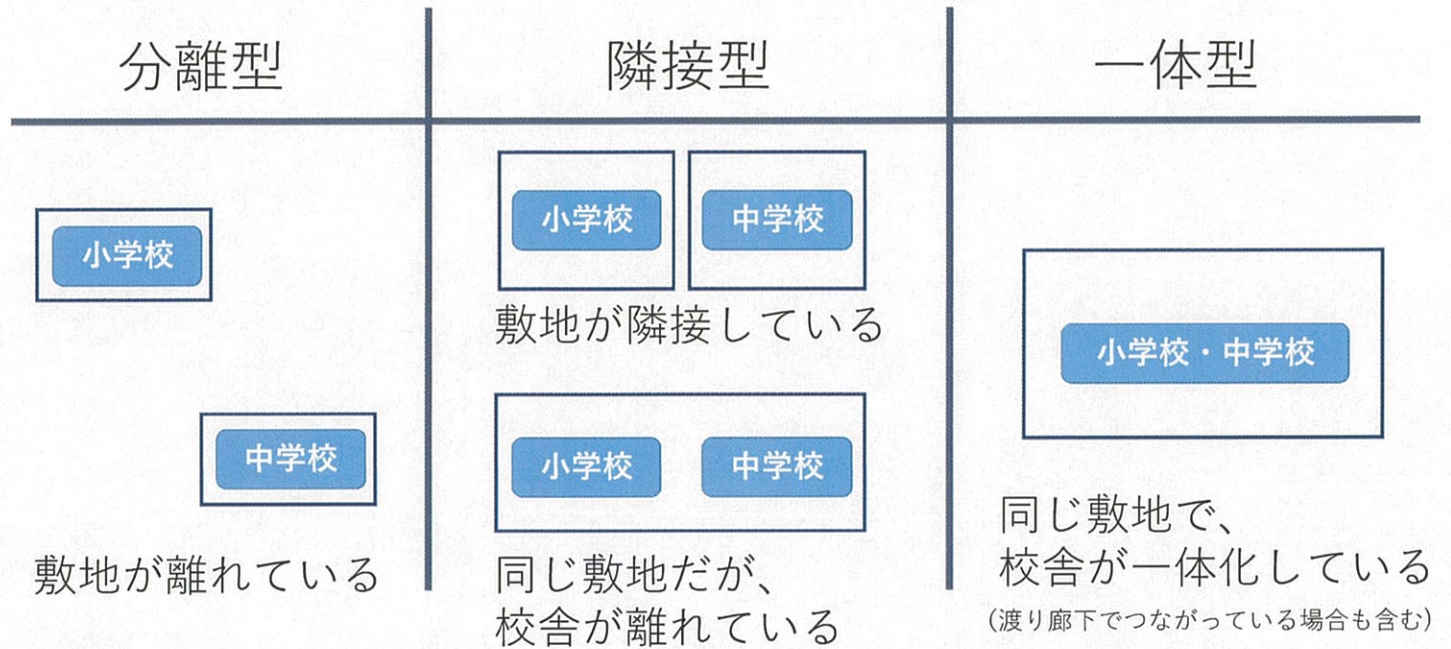
（教職員の協働）

- 小・中学校共通で実践する取組が増えた（98%）
- 教員の教科指導力の向上につながった（87%）

※H29調査において、公立学校で、「大きな成果が認められる」「成果が認められる」と回答した割合

「小中一貫教育の導入状況調査（文部科学省実施 平成29年3月1日時点）」参照

施設の設置パターン



施設整備に関するアンケート調査（国研実施）

■ 調査内容

全国の小中一貫教育校において、施設の計画・設計上の工夫が、

- ① 実際にどの程度整備されているか
- ② 学校現場において、どのように評価されているか
- ③ どの程度の費用がかかっているか

について調査を実施

■ 調査対象

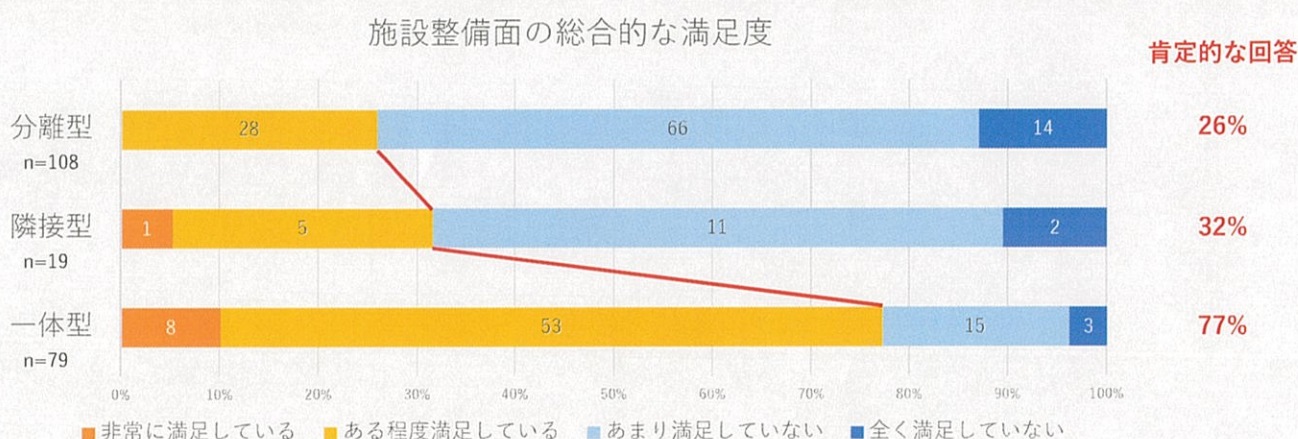
全国の公立小中一貫教育校のうち、地域別の学校数のバランスを考慮して抽出した286件を調査対象とし、207件から有効回答を得た。

■ 調査時点

平成29年3月1日現在

施設整備に関するアンケート調査結果①（国研実施）

- ・ 施設面の総合的な満足度は、一体型が最も高く、隣接型、分離型の順に低くなる。
- ・ 渡り廊下がなく校舎が完全に一体となっている「完全一体型」の方が、渡り廊下で繋いで一体となっている「渡り廊下型」より満足度が高い。



「義務教育学校等の施設計画の推進に関する調査研究（国立教育政策研究所文教施設研究センター実施 平成30年8月）」参照
https://www.nier.go.jp/shisetsu/pdf/compulsory_education_schools_h3008.pdf

施設整備に関するアンケート調査結果②（国研実施）

- ・ 施設面の総合的な満足度は、学校の「面積」「築年数」「施設整備費用」の影響を受けるが、「築年数」が進んだ学校、「施設整備費用」が小さい学校でも、満足度が高い学校は一定程度見受けられる。
- ・ 一体型であっても、準備段階で建築設計の専門家が関わっていない学校や施設的な工夫の少ない学校では、施設面の総合的な満足度は低い。

施設的な工夫の例

教室と連続性を持つオープンスペース、教科の学習・交流スペース、ランチルーム、掲示板・展示スペース、一体的な職員室、地域住民の活動拠点となる施設・室 等

- ・ 分離型であっても、施設的な工夫をしている学校では、施設面の総合的な満足度は高い。

施設的な工夫の例

分離校舎間の取組を紹介する掲示板・展示スペース、分離校舎間の交流等に十分な広さ・数のランチルーム、交流授業等を行うネットワーク環境、十分な広さ・数の地域住民の活動拠点となる施設・室

「義務教育学校等の施設計画の推進に関する調査研究（国立教育政策研究所文教施設研究センター実施 平成30年8月）」参照
https://www.nier.go.jp/shisetsu/pdf/compulsory_education_schools_h3008.pdf

基調講演

学校像を革新する 小中一貫教育校とその計画

国立教育政策研究所客員研究員
教育環境研究所所長 東洋大学名誉教授

長澤 悟

令和2年度 国立教育政策研究所 文教施設研究講演会

小中一貫教育校の学校建築
(教育者と建築家の対話の促進)

教育の革新と小中一貫教育校の計画

東洋大学名誉教授
教育環境研究所 理事長
国立教育政策研究所客員研究員

長澤 悟

学校づくりとは、

1. 教育と施設、学校と地域、ソフトとハードを総合的に考えること
2. 建築は土地の上に建ち、学校は「観」の上に立つ
3. はじめに関係者が「観」を共有する計画プロセスが大切
 - ① **子供観** 未来社会に生きる子供の姿を描く
 - ② **教育観** 教育を問い直し、目標を共有する
 - ③ **学校観** 地域のみんなで、地域にとっての学校を考える
 - ④ **施設像** 固定観念にとらわれずに意見を出し合う
4. その答、姿は学校ごと、地域ごとに異なる
→ 「私たちの学校」

小中一貫教育の学校づくり

1. 子供の学び・成長を9年間見通した教育
2. 地域ぐるみ、社会総がかりの教育

施設計画の課題

- ・ 9年間一貫した**教育活動**に適した施設環境
- ・ 9年間一貫した**学校運営**に適した施設環境
- ・ **地域ぐるみ**で子供たちの学びを支える施設環境

小中一貫教育で期待される効果

- ・「中1ギャップ」の緩和
 - 不登校、いじめ、暴力行為等の減少－生徒指導の問題・負担減少
- ・児童生徒に思いやりや助け合いの気持ちが育まれる
- ・中学校への進学に不安を覚える児童が減る
- ・上級生が下級生の手本となろうとする意識が高まる
- ・下級生に上級生に対する憧れの気持ちが強まる
- ・思いやりや助け合いの気持ちが育つ
- ・自己肯定感、自己効用感が向上する
- ・学習意欲の向上、授業の理解度の向上、学習習慣の定着が図れる
- ・小中学校教職員間で互いのよさを取り入れ、協力意識が高まる

効果を高め、取組みをしやすくする施設・環境のあり方

19

施設一体型小中一貫教育校計画の課題と対応

- ・児童生徒の人間関係の固定化（特に小規模校）
 - 多様な形態での異学年交流機会を増やす
 - 異学年交流空間の確保
- ・施設・スペース（教室、グラウンド等）の確保及び使用時間調整
 - 面積効率の高い計画→計画面積の削減
 - * 小中単独では持てない施設による教育活動の充実
- ・校舎間等の移動、活動に伴う児童生徒の安全の確保
 - 階段、設備と雲寸法の違い
 - 小学生が安全に活動できる遊び・運動スペースの確保
- ・小学生高学年のリーダー性・主体性の育成
 - 校舎やフロアの区分による成長段階の演出
 - 各行事の中で高学年がリーダーシップを発揮する機会の設定
- ・中学校における生徒指導上の問題の小学生への影響
 - （先進校ではあまり聞かない）
- ・施設一体型の課題
 - 登下校時間、授業時間の違いへの対応
 - 学校規模に応じた室構成と配置
 - 校地面積の確保－運動場・遊び場・屋外教育環境
 - 余裕ある空間を生み出す工夫

20

小中学校段階間の差異への配慮 9年の旅

- 授業方法の違い(小学校:学級担任制、中学校:教科担任制)
- 授業の1単位時間の違い(小学校:45分、中学校:50分)
- 部活動等の有無、PTA、コミュニティスクール

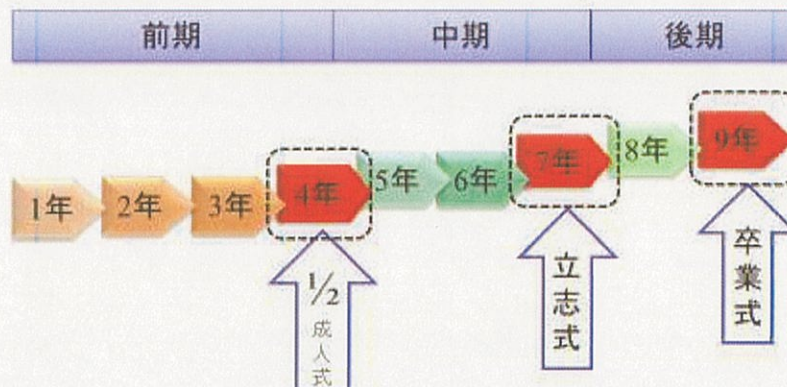
	学年区分	PTA	授業方法	運営方式	部活動	校長ポスト	主な行事	校時	制服	
1年生	第1ステージ	小中PTA一本化	学級担任制	特別教室型	なし	1人	入学式・小学校過程終了式・卒業式・始業式・終業式・運動会・体育大会・学習発表会・文化祭等	授業の1単位時間 45分	なし	
2年生										
3年生										
4年生										
5年生	第2ステージ		一部教科担任制		部活動			50分		標準服着用
6年生										
7年生										
8年生	第3ステージ		教科担任制		なし			なし		
9年生										

21

1. 発達段階の特色に応じた学年の区切り (4・3・2制、5・4制、4・5制等)

- 小学校高学年と中学校1年の接続
- 学年の区切りごとの特色ある指導内容
(少人数学級編制、教科担任制の導入、ステージ発表など)
- 成長の節目を大切にする機会
- 9年間の旅-学年が上がるとともに変化の感じられる施設・環境づくり

学年の区切りの例

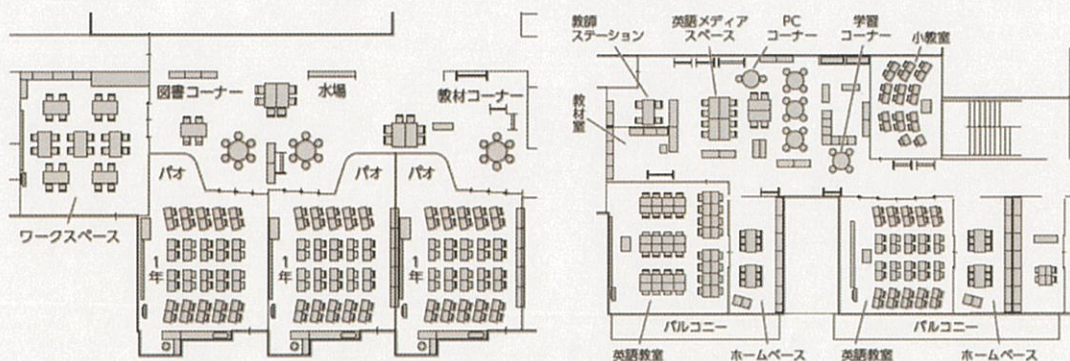


22

2. 学年段階の区切りに対応した空間構成・配置・環境

⇒各学年段階の特性に応じた教室まわりの構成

- 例) 1・2年：教室まわりで様々な活動ができる 総合教室型
 3・4年：普通教室と特別教室との組み合わせ 特別教室型
 5～7年：教科担任制の導入 一部教科教室型
 8・9年：自ら教室に行く。教科指導の充実 教科教室型



1・2年：学年コモンズ

8・9年：教科コモンズ

学年区分「6・3」に基づきゾーニングを計画。校舎中央を交流の核として位置付け、図書館や特別教室を配置【府中市 府中学園】

3. 特別教室・運動施設等の共用と時間割編成

- 目的
- ・積極的に共用を図ることにより、教室の利用率を高める
 - ・教育内容の充実や学校運営の円滑化を図る
 - ・単独には持てない教室・施設を利用できるようにし、教育機会を充実する

*** 教室の共用、授業の乗り入れ、小中の交流のために校時を揃える**

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00
1年								
2年	朝礼 15	1限 45	2限 45	3限 45	4限 45	給食 45	清掃 15	5限 45
3年								6限 45
4年								終礼 10
5年								
6年								
7年	朝礼 15	1限 50	2限 50	3限 50	4限 50	給食 30	25	5限 50
8年								6限 50
9年								清掃 10
								5
								終礼 10

4. 子供同士、学校と地域の交流スペース

異学年交流 集会・発表・行事

児童会・生徒会、部活動

- ⇒ 図書室・学習情報センター、特別教室
食堂・ホール
- ⇒ 移動空間・トイレ・流し、屋外空間
- ⇒ お互いが見え合う関係

地域との交流、地域活動等

- ⇒ 地域交流センター



25

5. 学校運営の一貫性を確保する管理諸室

● 職員室

- ⇒ 小中一貫教育校の運営では小・中学校の教員間の連携が重要
職員室を共同で利用、教員相互のコミュニケーションの場として活用
* 多人数となる場合のスペース構成

● 日常的な業務の連携、コミュニケーションがとれる管理諸室

- ⇒ 管理諸室＝校務センターの一体化により、組織体制を整えやすくする
- ⇒ 打合せ、印刷・教材作成・情報処理、カリキュラム管理等の
スペースを充実
- ⇒ 教材作成室、リフレッシュスペース、休憩室をコミュニケーションペースに



● 保健室・相談スペース

- ⇒ 児童生徒の発達段階に応じて心と体への対応ができるようスペースを確保
落ち着いた雰囲気づくりをする。

26

学校の変革と小中一貫教育校

1. 教育空間の革新
2. 新たな学校像

変わる社会

- ICT、AI、IoT、ロボット — Society 5.0
- グローバル化
- インクルーシブな共生社会
- 持続可能な社会づくり
- ポスト・コロナ
- さらにその先を見つめて・・・

変わる教育、変わる学校

新学習指導要領

- **アクティブ・ラーニング** 主体的・対話的で深い学び
コンテンツ 内容・教科 → コンピテンシー 資質・能力
教育目標・内容・時間数 + 方法 → 施設・教育環境のあり方
①「未知の状況にも対応できる“思考力・判断力・表現力等”
② 学びを人生や社会に活かそうとする“学びに向かう力・人間性”
STEAM教育・ICT教育・EdTech 個別最適化学習・インクルーシブ教育
 - **カリキュラム・マネジメント**
教育内容・時間、人的・物的資源を効果的に組み合わせ、学習効果を最大化
 - **コミュニティ・スクール** 学校運営協議会
学校が地域を支え、地域が学校を支える
教育・地域づくりの目標を、学校と地域が共有し、連携して実現する
 - **チームとしての学校**
教職員の力+地域の力+外部の力
学校と地域の共同ー地域ぐるみの教育
- ⇒一つ一つの教室、場所を問い直す

29

アクティブ・ラーニング

主体的、対話的で深い学び
ICT、オンライン教育

ー調べる 一人で、グループでー

ー議論するー 教室で、多目的スペースで、
プロジェクターでホワイトボードで

ーまとめる 一人で、グループで、ー

ー発表する 教室で、ー



コモンズ：学校施設を考え直すキーワード

1. 教室から**学年コモンズ**、**教科コモンズ**へ

自由度の高い教室まわりークラクルーム＋多目的スペース、
教科教室＋メディアスペース

2. 黒板・チョークからICT教育環境へ

一人1台端末、高速大容量ネットワーク→オンライン教育
いつでも、どこでも、だれとでも

3. 図書館から**ラーニング・コモンズ**へ

学習情報センター(図書館＋コンピュータ)、探求型学習、表現・発表、交流

4. 特別教室から**STEAMコモンズ**へ

自ら発見する驚きのあるサイエンス、自由に表現する喜びのあるアート
Tinker Space、Maker Space

5. 職員室から**教職員コモンズ**へ

コミュニケーション、コラボレーション、リフレッシュ・情報交換、作業・打合わせ、
教材製作

6. 通路・階段・便所から**コモン・スペース**へ

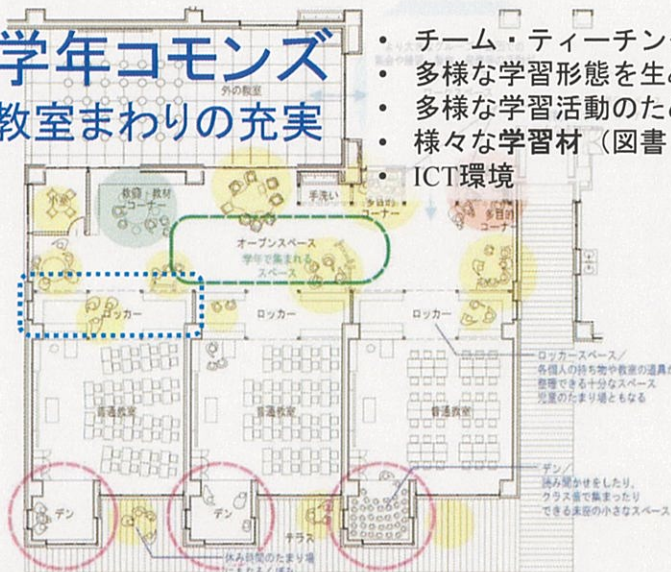
居場所、交流空間、心地よい空間(居心地、学び心地、教え心地、使い心地)

7. 学校を地域みんなの**地域コモンズ**へ

学校地域交流センター、複合施設、セキュリティ

31

学年コモンズ 教室まわりの充実



- ・ チーム・ティーチング・弾力的な集団編成
- ・ 多様な学習形態を生み出す教育空間
- ・ 多様な学習活動のためにセットしておける場
- ・ 様々な学習材(図書・プリント・具体物・作品)
- ・ ICT環境



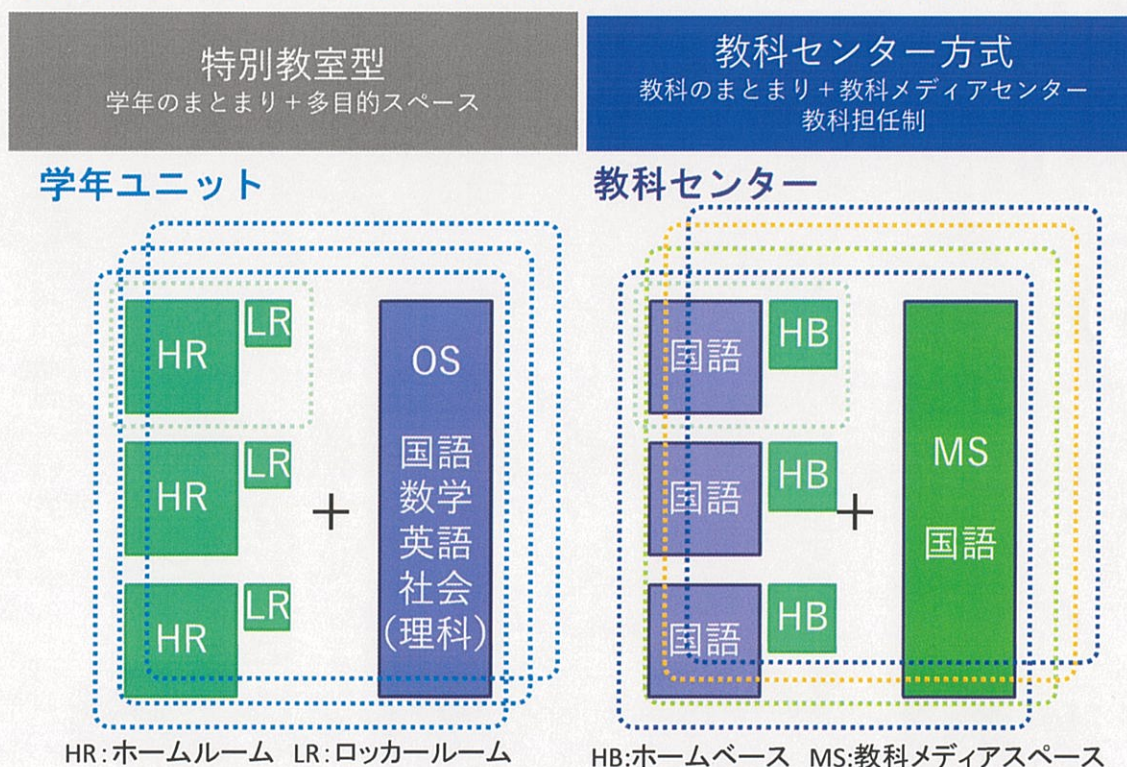
高学年での教科教室型(教科センター方式)の検討

教科教室、教科メディアセンター、教科ステーション等で
教科コモンズ(教科センター)を構成する。

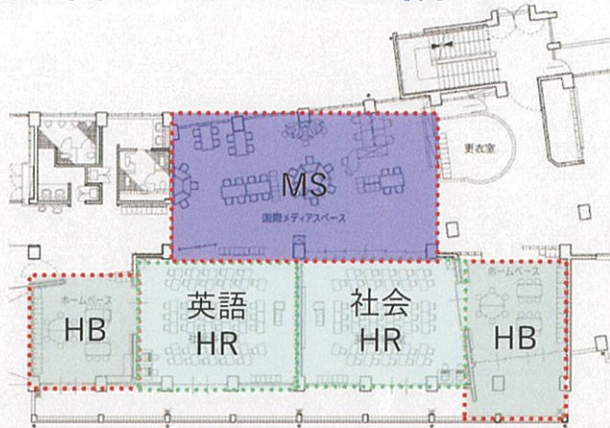
- ・ 各教科の狙い、教師の思い通りに教育環境を作れる。
- ・ 教科指導を充実させる。
- ・ 自律性、主体性、能動的な生徒を育てる
- アクティブ・ラーニング
- ・ 学校が取り組む教育を「見える化」する
- ・ 小中一貫校や小中併設校で9年間の学校生活に変化をつける

33

教科センター方式(教科教室型)の中学校



教科コモンズの構成



MS:教科メディアセンター HB:Home Base



廊下を歩くたびに、好奇心を引き出す仕掛けがある。
ワクワクする校舎が、同志社中のシンボルです。



大洗町立南中学校 (茨城)

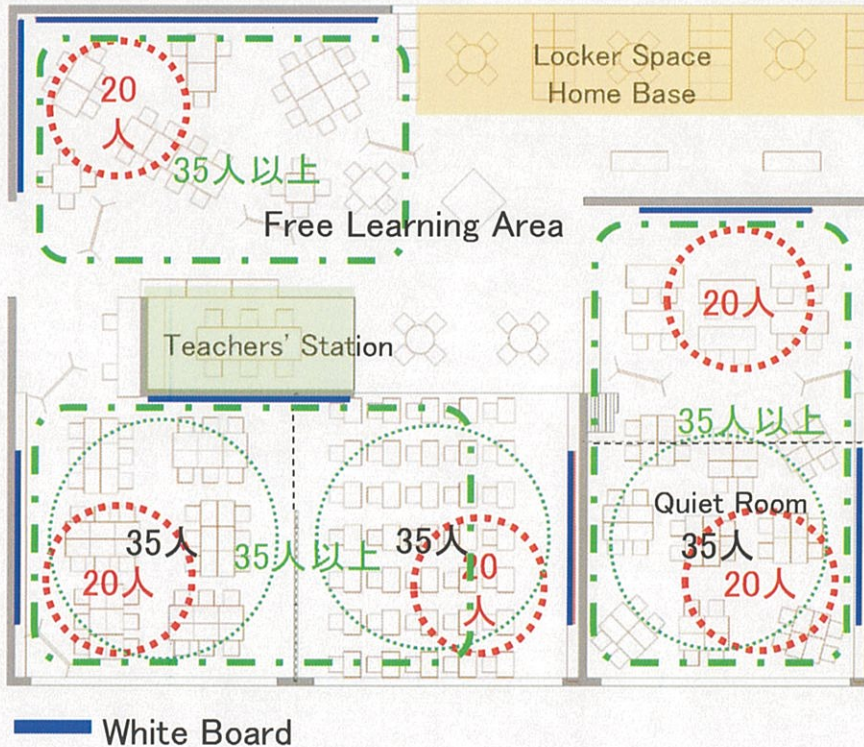


南房総市立嶺北中学校(千葉)



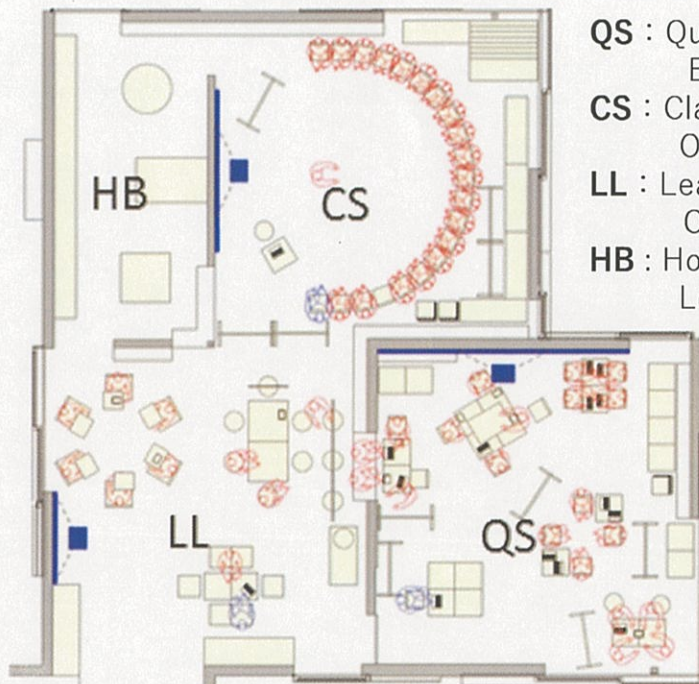
学年コモンズのダイアグラム

70~100人程度



Collaboration Labo Class Unit (70人)

広島県立広島叡智学園中学校・高等学校



- QS : Quiet Space
Enclosed Classroom
- CS : Class Space
Open Classroom
- LL : Learning Lounge
Open Space
- HB : Home Base
Locker Space



- Video Projector
- White Board

学習情報センター・ラーニング・コモンズ

- 読書センター: 読書の楽しさ喜びを感じる
- 学習センター: 主体的な学びを支える
- 情報センター: コンピュータ室と一体
- 交流センター: 他のクラス・学年の子供と童
- ラーニング・コモンズ



横浜市立霧が丘義務教育学校



糸魚川市立糸魚川小学校(新潟)



豊島区立池袋本町小学校・池袋中学校





オンライン

時間・場所の制約を越えた学び
いつでも、どこでも、だれとでも

対面

学校は共に学び合い、
育つ場
リアルな体験、交流、
空間の重要性

チャットで全員が発表
画面でクラス全員と顔を合わせ、チャットで質問・回答。進度配速に簡単にみんなが話し、作品を見せ合い、意見に耳を傾ける。

ヘッドセットから授業に出席
ネットワークにつながれた「分身ロボット」を通して、遠隔授業にも教室にいるのと同じに授業を受ける。いつもみんなと一緒に。

オンラインで生まれる新しい学び

遠くの友だちと共に学ぶ
離れた学校、小規模校など、連携地の中学校や地域、世界の子どもたちとの交流授業を通して、新鮮な気づきを得て、考えを深める。

英会話の先生は海の間こう
海外のネイティブの先生や子どもたちと顔面を揃えて会話。恥ずかしがらず相手の口元を見ながら、積極的に、楽しく。

いつでもつながり合う
画面の向こうの友だちと質疑を交番、授業では馴染み深い。自由時間は楽しくおしゃべり。それぞれの学校時間が豊かに。

兵庫県立東三田高等学校と連携授業 / 徳島県立佐田高等学校と連携授業 / 徳島県立吉野高等学校と連携授業 / 徳島県立吉野高等学校と連携授業 / 徳島県立吉野高等学校と連携授業

特別教室は創作工房・アトリエ

- 作る、表現する喜びが感じられる場
- 実験し、体験し、発見する驚きの感じられる場
- 本物・実物に触れる
- 利用時間数を高め、余裕のある空間を確保する



美術室 坂井市立丸岡南中学校(福井)



音楽室 熊野市立有馬中学校



調理室 武蔵野市立大野田小学校

ティンカー・スペース メーカー・スペース



TINKERING SPACES

A SERIES OF INSPIRING INTERVIEWS
WITH MAKERS, EDUCATORS, + PARENTS



Tinkering is about playing, exploring, experimentation and setting imaginations on fire!
Build your own tinker space and ignite a passion for learning.
www.steampoweredfamily.com

STEAMコモンズ Science + Art & Craft Center



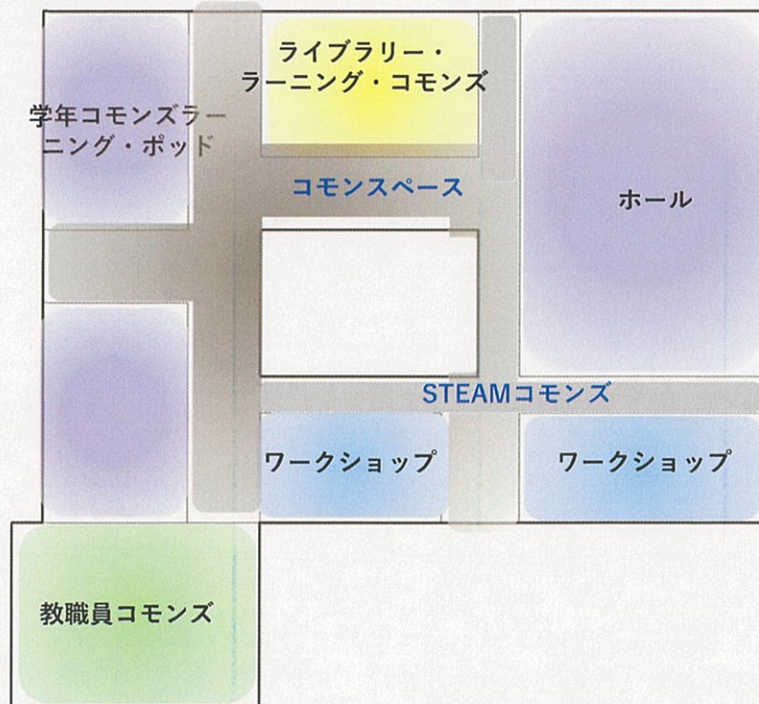
理科センター カリタス女子中学・高校

学校・高等学校

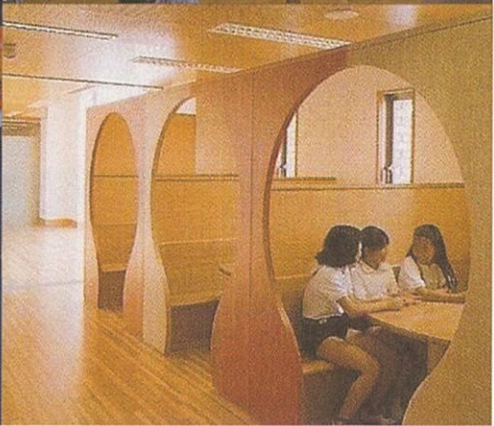
美術センター 同志社中学校



コモンスペース



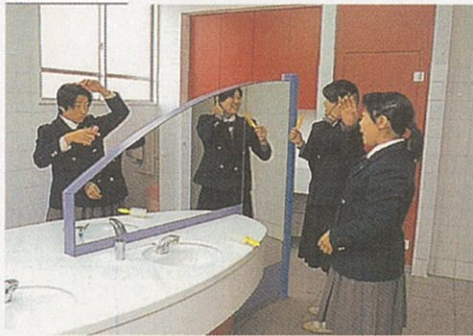
発表・集まりの場



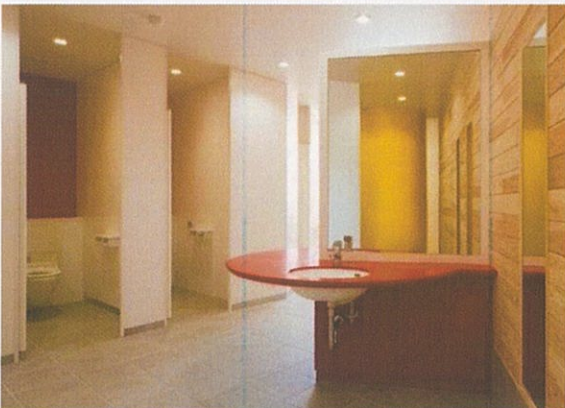
同志社中学校

楽しいトイレ・水場

4K → 新4K
 きたない → きれい
 くさい → かいてき
 くらい → けんこう
 こわい → こうりゅう

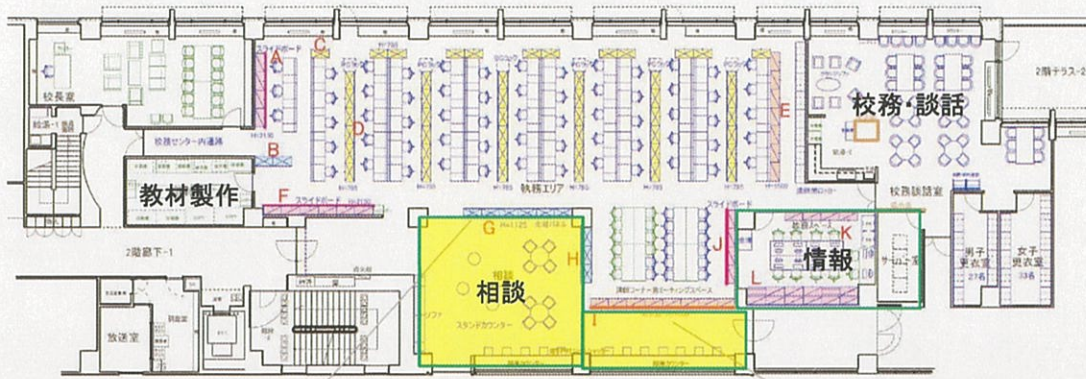


藤村女子中学校



三春町立要田中学校 (福島)

入りやすく、気軽に相談ができる職員室



カリタス女子中学校・高校



南部町立名川中学校(青森)

教職員コモン

教師の働き方改革

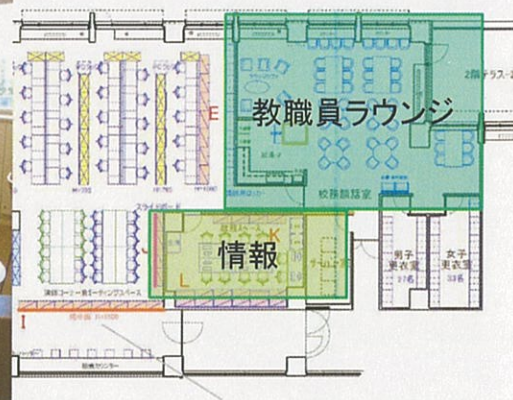
- ⇒ 多様なコミュニケーション
- ⇒ 印刷・教材製作・情報処理
カリキュラム管理
- ⇒ リフレッシュできるラウンジ



教材製作・カリキュラム管理室



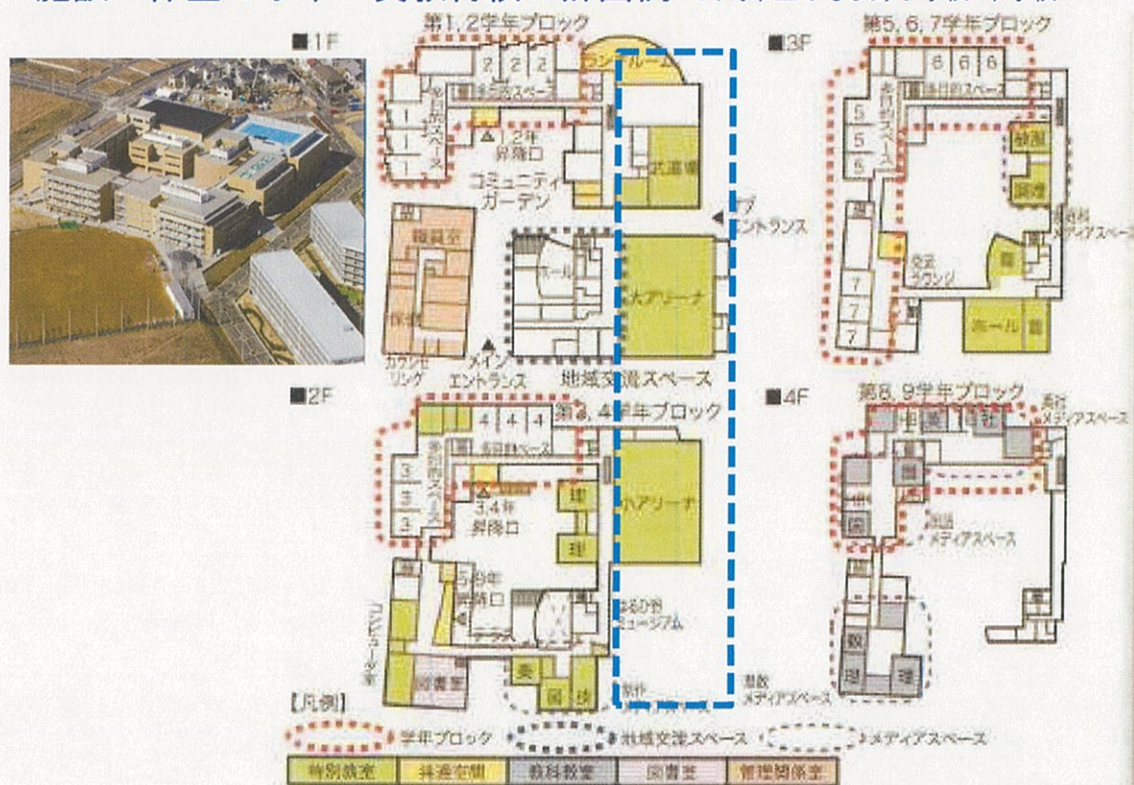
カリタス女子中学校・高校



小中一貫教育校の計画例

川崎市立はるひ野小学校

施設一体型の小中一貫教育校の計画例 川崎市立はるひ野小学校・中学校



交流の場となるアプローチ



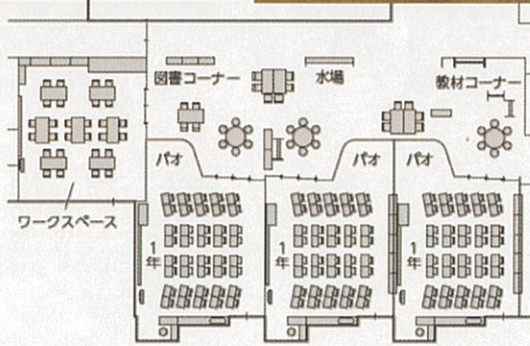
川崎市立はるひ野小学校

小中交流スペース

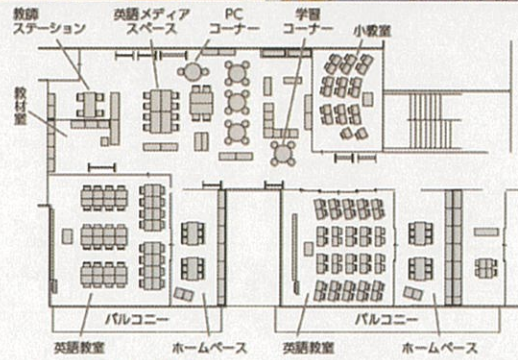


学年段階に応じた教室まわり

川崎市立はるひ野小・中学校

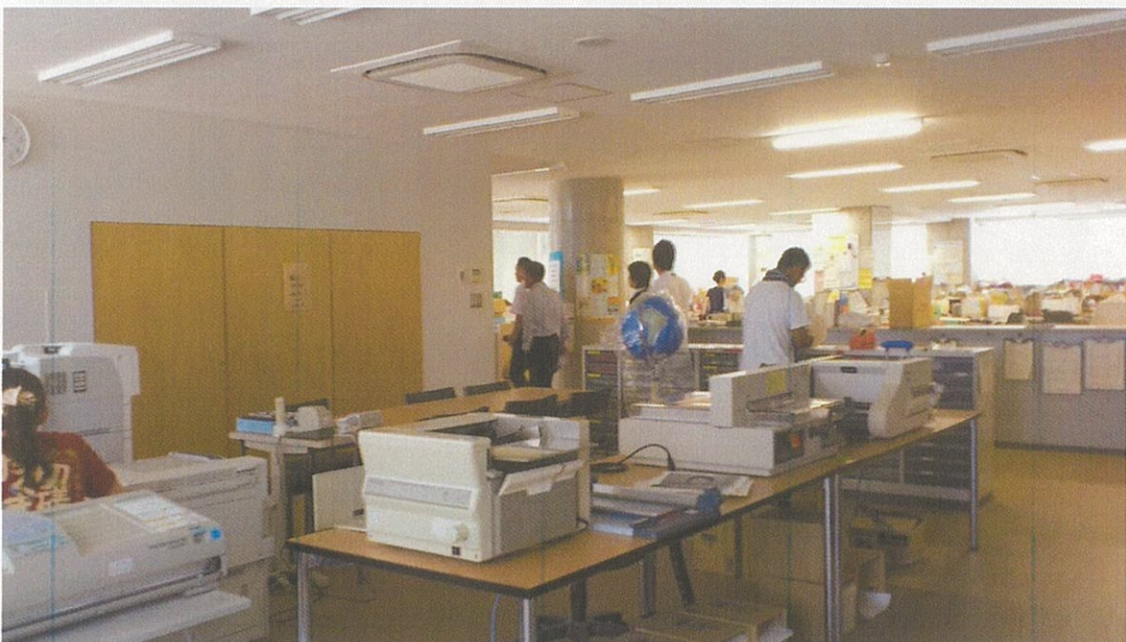


1・2学年: 学年コモンズ



8・9学年: 教科コモンズ

全校教職員スペース



学校と地域の交流スペース



地域交流センター



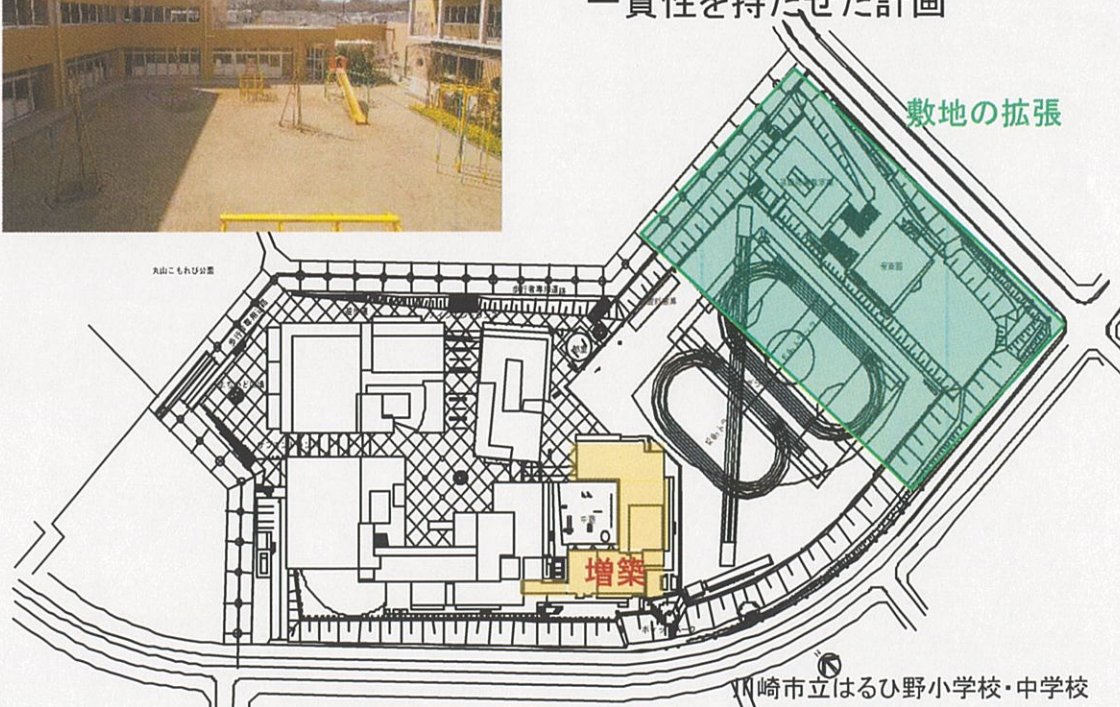
多目的室



増築棟

増築計画

小中一貫教育校として
一貫性を持たせた計画

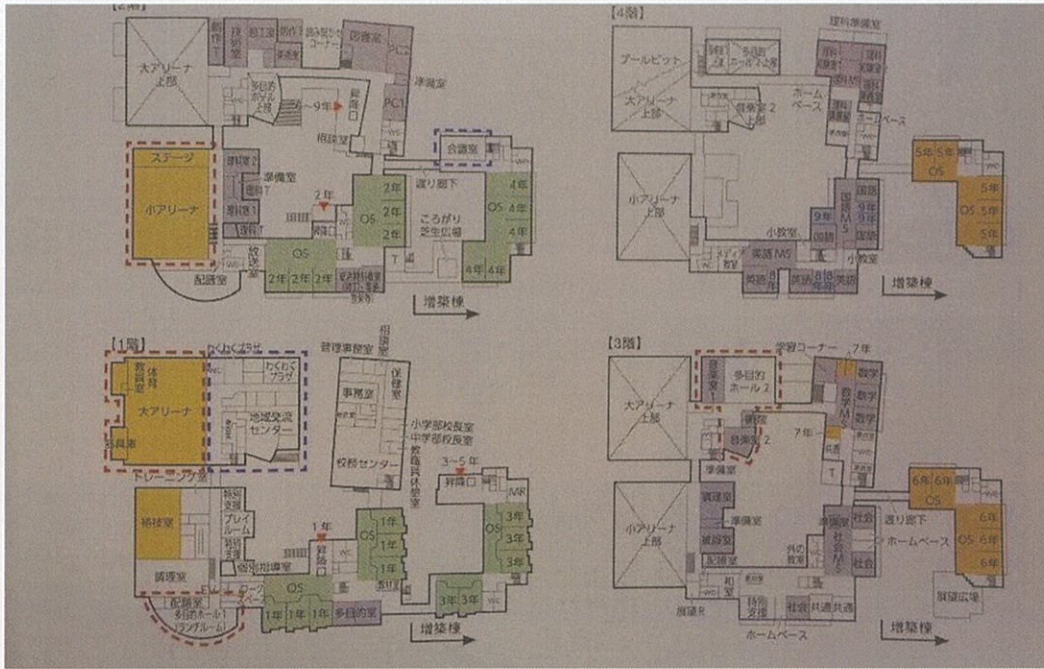


敷地の拡張

増築

崎市立はるひ野小学校・中学校

増築計画



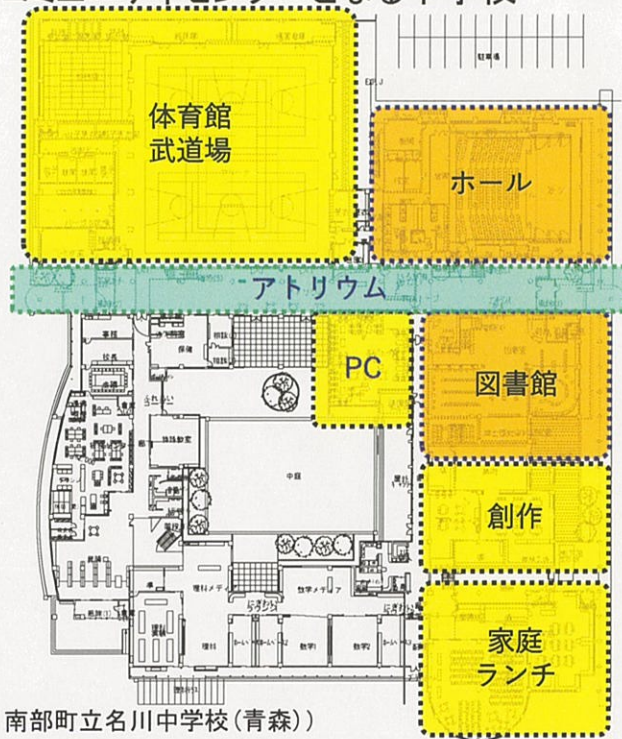
川崎市立はるひ野小学校・中学校

学校とコミュニティ施設の複合 コミュニティセンターとなる小学校

コミュニティセンター 体育館 ホール 小学校 図書館
児童クラブ

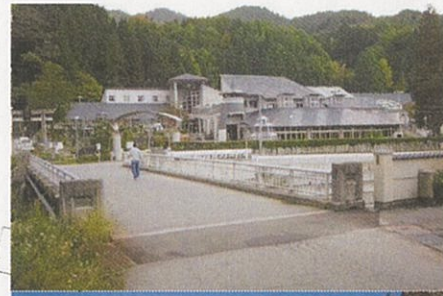
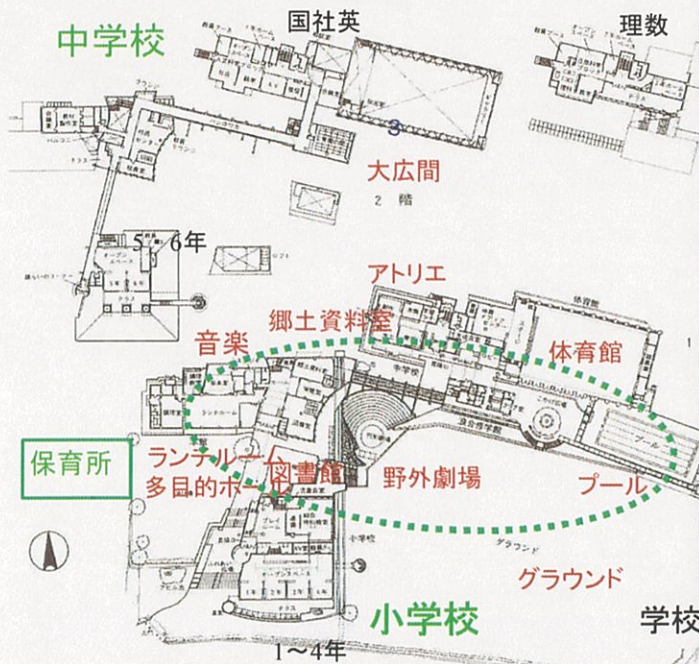
近江八幡市立桐原コミュニティエリア(滋賀)
1階平面図

学校とコミュニティ施設の複合 コミュニティセンターとなる中学校

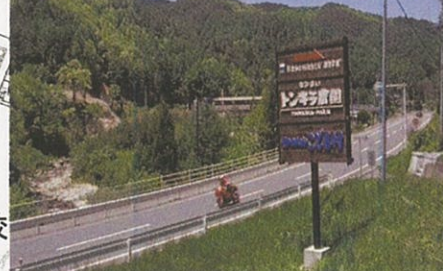


中山間地の小中併設校

学校は地域みんなのもの
地域を支える学校 地域が支える学校



村全体が村民すべての“混合学校”



東日本大震災からの学校復興 学校は地域の復興の核

「雄勝プロジェクト。みんなの夢の宝箱」
子供と書いて“みらい”と読む
未来と書いて“こども”と読む



さらなる検討課題

- 施設隣接型、施設分離型の施設の配慮
- 小学校複数校と1中学校による小中一貫教育校
合同授業、交流学习、教職員の交流
ネットワーク環境、オンラインの活用、スクールバス
- 学校統合と小中一貫教育校・義務教育学校
小規模・中山間地の小中一貫教育校のジレンマ
地域に学校を維持する←→学校規模の確保
低・中・高学年校の分散、中学校は集合
- 大規模な小中一貫教育校
帰属意識、交流、安心を確保できるゾーニング

小中一貫教育の意義、目標を共通理解し、
個別の条件に応じてみんなであり方を考える